

もし、がんになったとしても —がん診療支援センターの取り組み—

問 総合医療センター TEL (33) 3151

がん診療体制の充実をめざし
「がん診療支援センター」を開設

総合医療センターは、国が指定する地域がん診療連携拠点病院に準ずる機能を有する病院として、滋賀県がん対策推進計画に基づき、「滋賀県地域がん診療連携支援病院」の指定を受けています。これまで以上に専門的ながん診療機能を充実し、安全かつ安心して受けていただけるよう、平成30年12月1日に「がん診療支援センター」を開設しました。

「がん診療支援センター」は、「がん化学療法部門」、「がん患者サポート部門」、「がん診療支援センター」の3つの部門に分かれています。がんの予防や早期発見から、胃がん、大腸がん、泌尿器がんなど年間700件以上にのぼるがん患者さんへ、質の高い最新の手術や適切な化学療法などの提供を行っています。さらに、診療体制の充実をめざし、患者さんへの相談支援や情報提供などを行っています。

総合医療センター院長
宮下 浩明

当医療圏でのがん治療を積極的に取り組んで行きます。

総合医療センター副院長
外科・消化器外科専門医
土屋 邦之

支援センター長としてがん診療に広く携わっています。

泌尿器科主任部長
牛嶋 壮

支援副センター長として実務を担当。





患者総合支援課長補佐
北川 博也

滋賀県地域がん支援病院に関する手続、補助金申請などの事務を担当。

がん薬物療法認定薬剤師
山口 瑞彦

がん薬物治療を安全に提供できる運用を検討しています。

外科部長
外科・消化器外科専門医
中野 且敬

外来化学療法室など、がん化学療法部門を担当。

看護師
川嶋 頼子

外来化学療法室でがん薬物療法に関する相談を受けています。

看護師
木本 美由紀

緩和ケアチーム、がん相談、患者支援外来、がん患者サロンを担当。

看護師
瀬戸 康子

各部門を統括する事務を担当。

がんは早期発見が大切です。早期に見つけて治療を行えば、より高い確率で改善が可能といわれていますので、定期的ながん検診を受けていただくことをお勧めします。

がん患者数は年々増加傾向にあり、日本人の3人に1人ががんで亡くなっています。近年では、日本人の2人に1人はがんになる時代といわれています。

がん診療支援センターでは、がんになったとしても、手術や抗がん剤治療のみならず、がん相談支援、緩和ケアなど納得できる治療を選択することや自分らしい生活が続けられるよう医師や看護師、薬剤師など専門スタッフが支援します。



がん診療支援センター長
土屋 邦之

ご存じですか？がん相談窓口

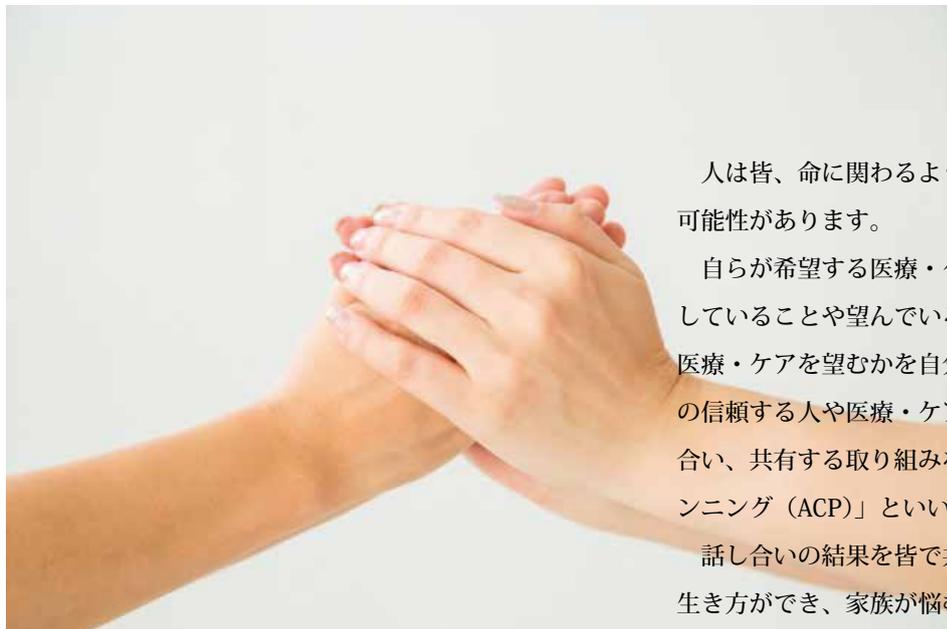


がん相談窓口担当
患者総合支援課 木本 美由紀

がん相談窓口は、患者さんやご家族あるいは地域の方々から、がんに関する相談を受ける窓口です。国立がん研究センターの研修を受けた看護師・医療ソーシャルワーカーが日々、相談に応じています。

がん相談に来られる人のお話を伺うと「こんな悩みを聞いてくれるところがあったなんて」という声が多く聞かれます。治療と暮らし（仕事、家事、育児、介護など）の両立、医療者・職場・家族との人間関係のこと、医療費や生活のこと、がんが進行して治療が難しくなってからの過ごし方などの不安や疑問の相談に応じています。相談者さんと必要な情報を一緒に探し、その人に応じた情報の提供を行います。

どうぞお気軽にご利用ください。



人は皆、命に関わるような大きな病気やケガをする可能性があります。

自らが希望する医療・ケアを受けるために、大切にしていることや望んでいること、どこで、どのような医療・ケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人や医療・ケアチームなどと繰り返し話し合い、共有する取り組みを「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」といいます。

話し合いの結果を皆で共有することで、自身の望む生き方ができ、家族が悩む負担も少なくなるといわれています。

地域のかかりつけ医や訪問看護、病院などで取り組みが進められています。当センターの緩和ケアチームでも相談に応じています。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

Advance Care Planning アドバンス・ケア・プランニング

「もしも」のために、大切な人と話しませんか。



近江八幡・安土合併10周年記念 近江八幡マントヴァ音楽祭2019 Music Festival Omihachiman Mantova 2019

音楽が掛け橋となり日本での公演が実現

本市と姉妹都市提携を結ぶイタリアのマントヴァ市から、マントヴァ国立音楽院教授で世界的バイオリニストのパオロ・ギドーニさんが初来日。6月13日～16日の3日間にわたり音楽祭が開催され、県内外から延べ約1300人の聴衆が訪れました。

1日目(13日)は沖島小学校で開催。演奏前に児童らと給食を味わい、食後には、児童らが「沖島太鼓」で歓迎し、交流を深めました。体育館で行われたコンサートは、6年生の小川瑠仁さんの司会でスタート。ルイジ・ガッ

3日間の音楽祭で使用されたバイオリンは、江頭町で「ウォルナット弦楽器工房」を営む細野正洋さんが製作したもの。前日のリハーサルで試奏したギドーニさんが音色に感銘を受け、使用が実現。客席で演奏を見守った細野さんは、目を細めながら、演奏に聴き入っていました。

このほか、音楽祭を記念した講演会やマントヴァの食材などを使ったマルシェも開かれ、音楽祭のムードを盛り上げました。

ティのソナタなど3曲を、同音楽院室内管弦楽団で唯一の日本人として活躍するピオラ奏者の森脇崇さんと熱演しました。

2日目(15日)の酒遊館(仲屋町中)では、ギドーニさんが同音楽院で指導したピアニストの峰松佳乃子さんと共演。酒蔵を改装した独特の空間に、ヴィヴァルディの「春」など4曲の音色が広がりました。

最終日(16日)は、市文化会館大ホールで開催。演奏前には、マントヴァ市から近江八幡市へ感謝の気持ちを込めた記念品のプレートが贈呈されました。コンサートでは、ヴィタリーやシューマン、フランクの曲など峰松さんのピアノと流麗に絡み合う名演奏を披露。ホールを埋める聴衆からは、大きな拍手が送られました。